知るきっかけ。

K07084　野村　和真

Keywords
閉鎖ガソリンスタンド　Convesion
農業　食事　買い物　勉強

1. はじめに

「日本の農業は危ない。」時が経つごとに日本の農地は減少、あるいは、使われなくなっている。そして、農業は人の知らないものとなっている。

しかし、日本人は「安心・安全」にこだわりをみせる。農業のことをあまりにも知らないのに。「安心・安全な野菜」それは「国内で生産された野菜」という認識。だが、国内の野菜は必要とされているのに農地の減少、農業人口の減少は止まらない。そこには矛盾が生じてしまっている。そして、農業は弱体化の一途を辿る。

2. 背景

安心・安全が求められる今、国内の農業は必要とされているにも関わらず、弱体化が進んでいる。高度経済成長に入った頃を期に国内の農業は弱体化が始まった。原因は第2次産業、第3次産業に人が集中したことによる。

1965年には560万戸だった総農家数は2005年には280万戸となった。また、基幹的農業従事者に至っては7割も減少し、そのうち5割程はは65歳以上の高齢者が占めている。これは、非常に深刻な状況といえる。

そんな中、農業は明るい兆しが見えてきている。農業に参入し平均的な会社員の数倍の収入を得ている人ができている。そのことが農業に興味を持つ人を惹きつける。だが、個人で始めるには簡単なことではない。それは、個人では技術の習得が難しいうえ、初期費用に多くの資金を必要とするからだ。また、企業や法人も参入している。農業だけではなく、加工・流通・販売とこれまで生産とは離されていたことを組みわせ、大々的に農業を新たな産業「第6次産業」として確立させようとしている。

3. 目的

農業を知るきっかけをつくる場所を提案する。提案するプログラムは体験、行うことで農業に興味を持たせ、そこから国内の農業に目を向けさせる。そのことにより、農業を活性化させる。

農業に目を向けさせるには野菜を一番消費する都市部できっかけを作る。それは、「安心・安全」を求める多くの人に日本の農業の現状を知らせることにある。そのことにより、ただ「安心・安全」を求めるだけではいけないということを認識させる。

そこで、農業に目を向けさせる役目を担う拠点を提案する。

3. 敷地

東京都練馬区。

練馬区は23区で一番の農地を有している。主要な作物としてはキャベツ、馬鈴薯、大根、ホウレン草がある。そして、伝統的な作物として練馬大根がある。

練馬区は住宅や農地が混在する。これは23区の中では練馬区ならではの環境である。これは昔から農業が盛んで、今も続いている。

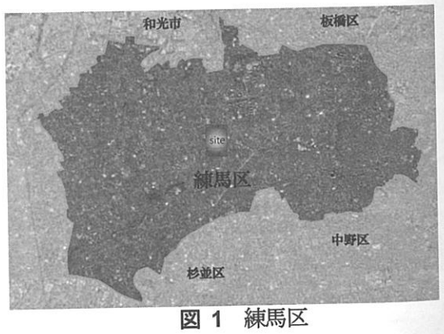


図 1　練馬区

練馬区では減少する農地を残す、あるいは、増やそうと農業に力を入れている。区民農園やイベントを開いたり、人手が不足している農家へ農業ヘルパーを派遣したりと農業を盛り上げている。また、農家も独自に農業体験農園を開き週末の農業教室を開いている。農家も区と共同して農業を活性化させる役目を担う。農家は農業周辺分野に進出する機会を得ている。農業が観光にもなっている。しかし、全ての農家がそうではない。

4. 計画

ガソリンスタンド(=GS)をCnversionをすることにより、農業を知るきっかけの拠点を計画する。

全国でGSの数は1994年をピークに減少の一途を辿り、農地や農業人口と似たような状況にある。

GSは常連客中心の施設といわれ、地域に密着した施設といえる。また、道路沿いに展開しているため様々な場所に点在している。これらはGSの持つ特性である。これら二点の特性を活かすことにより、多くの人に知ってもらう機会が増えることにつながる。

5. ダイアグラム

GSのプログラムを農業に興味を持つきっかけとなるプログラムに入れ替える。農業に興味をもつきっかけとして三つのプログラムを設定する。Agriculture School(=AS)、レストラン、市場を三つのプログラムとする。それら三つのプログラムの中から二つを組み合わせGSに組み込んでいく。そして、きっかけをつくる拠点にする。

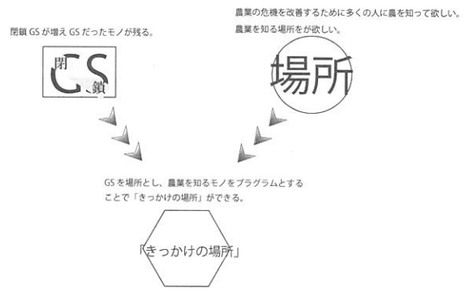


図2　ダイアグラム

ASの実習で作られた野菜をレストランで料理する(AS→レストラン)。レストランで作られた加工食品を市場で売る(レストラン→市場)、などのプログラムの組み合わせにより、拠点同士をリンクさせることで農業周辺分野への進出が可能となる。

農家や農業に関心のある人々はこのリンクするGSを活かすことで、農業以外の周辺分野のノウハウを得るチャンスをつくることができる。それにより、習得できたノウハウは農業を進展や農業を始めるための土台となりえる。

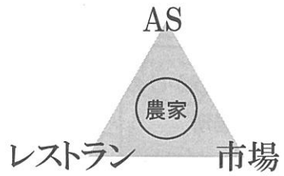


図3　農家とプログラムの関係

6. 意匠計画

GSをConversionしていく際、GSの構成要素であるキャノピーをGSの象徴として残す。また、地下にガソリンタンクがおさめられていたところは、農業で用いる腐葉土を作る場所として活用する。

キャノピーの反復によってプログラムを展開する空間を増やしていく。車のスケールだったものを人的スケールに置き換え、空間を構成していく。

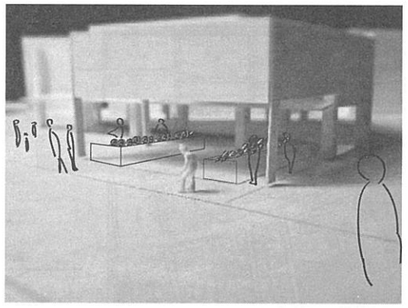


写真１　スタディー模型

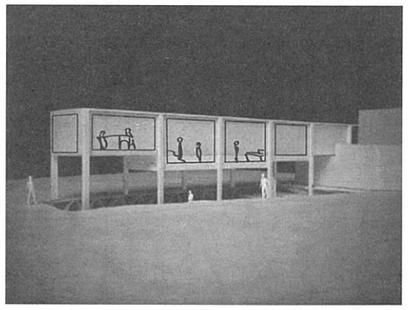


写真２　スタディー模型

参考文献

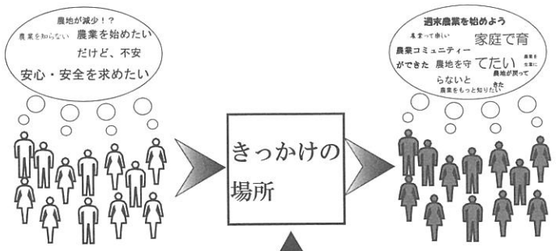
1) ガソリンスタンド再生計画報告書「SSの事業多角化」と「閉鎖SSの有効転用」の建築的可能性
株式会社三菱総合研究所

2)目黒区ホームページ　http://www.city.meguro.tokyo.jp/

3) 図解　次世代農業ビジネス

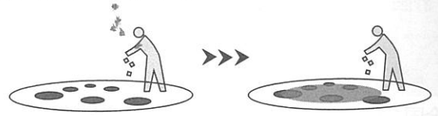
研究指導：伊藤洋子 教授

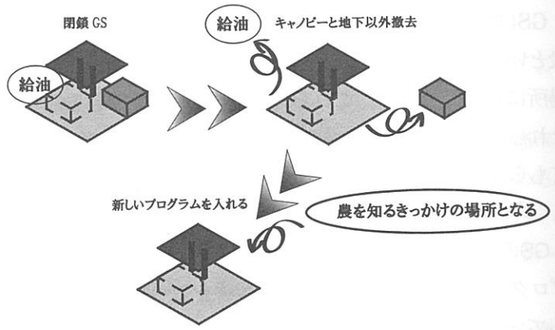
Kazumasa NOMURA



こんな場所を作りたい

いろんな場所に点在するGSにプログラムを蒔くことにより、GSの周辺で農業が盛んになり、農地が必要となる。そして、農地の保存、増加につながる。



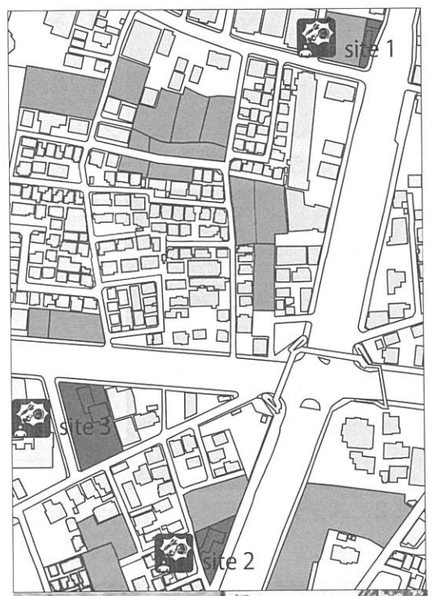


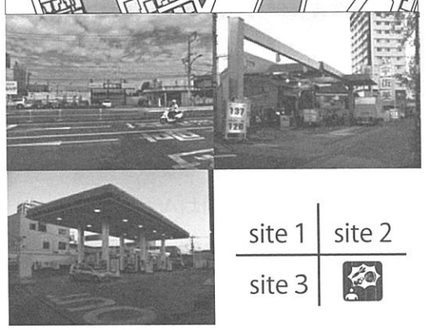
蒔くプログラム

- 市場：買い物　人との会話で知る
- Agriculture School：農業の勉強　聞くことで知る
- レストラン：食事　食べて知る

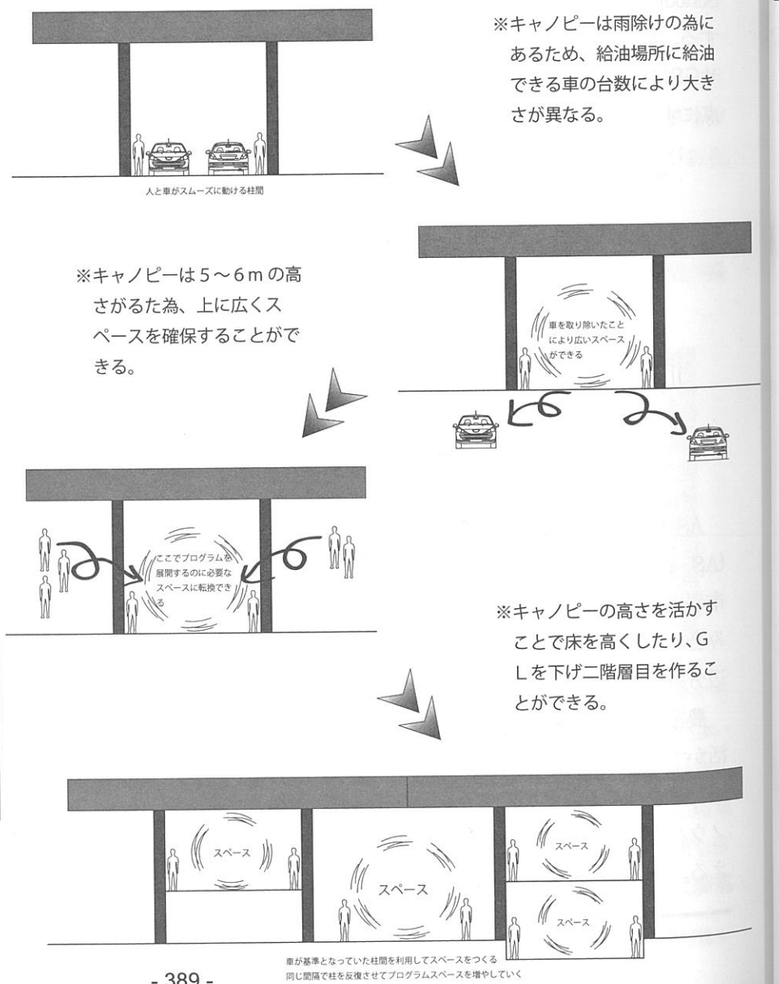
「話す」「聞く」「食べる」これらの行為をすることで、ただ野菜を扱うのではなくその後ろにある、農業について気が付いてもらう。

地図上のGSマークをピクトグラムに変えてる。カーナビからもわかりやすく。





site 1 | site 2
site 3

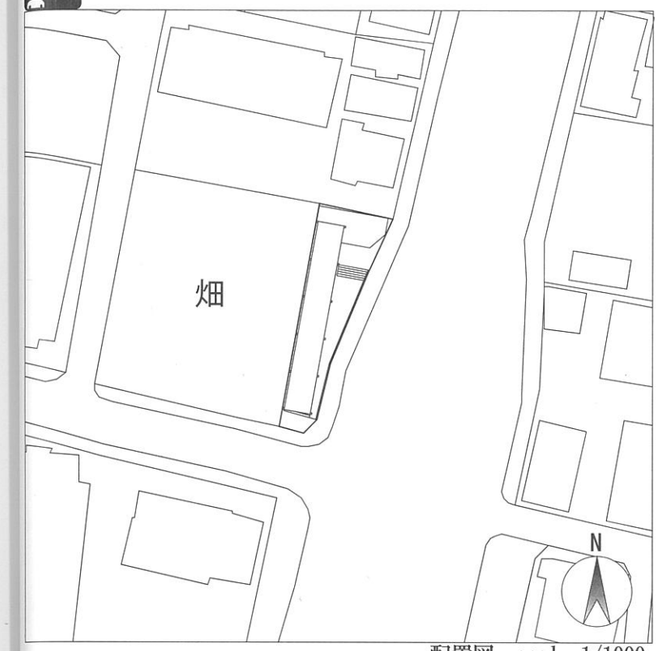


※キャノピーは雨除けの為にあるため、給油場所に給油できる車の台数により大きさが異なる。

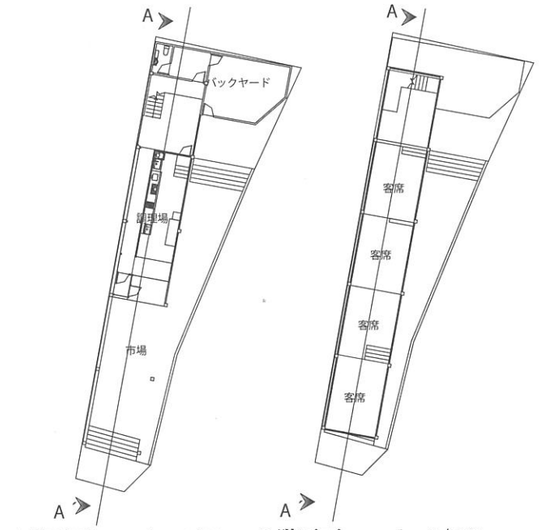
※キャノピーは5～6mの高さがるた為、上に広くスペースを確保することができる。

※キャノピーの高さを活かすことで床を高くしたり、GLを下げ二階層目を作ることができる。

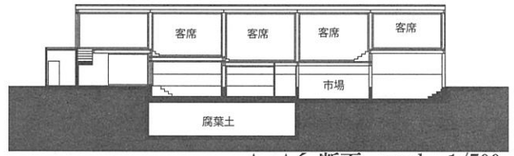
site 1　レストラン・市場



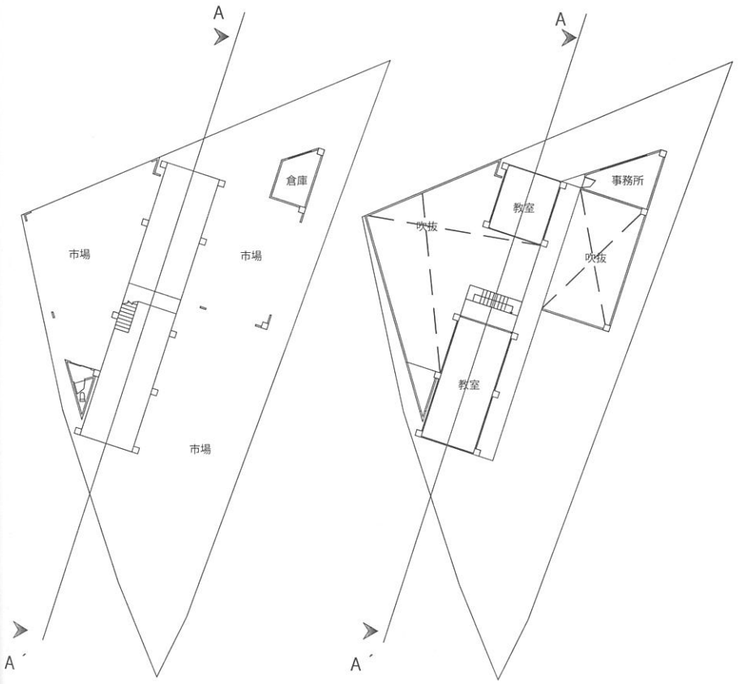
配置図　scal　1/1000



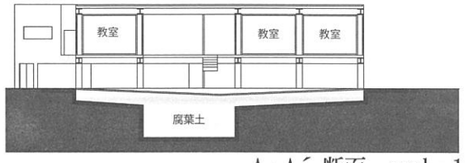
1階平面　scal　1/500　2階平面　scal　1/500



A－A´断面　scal　1/500

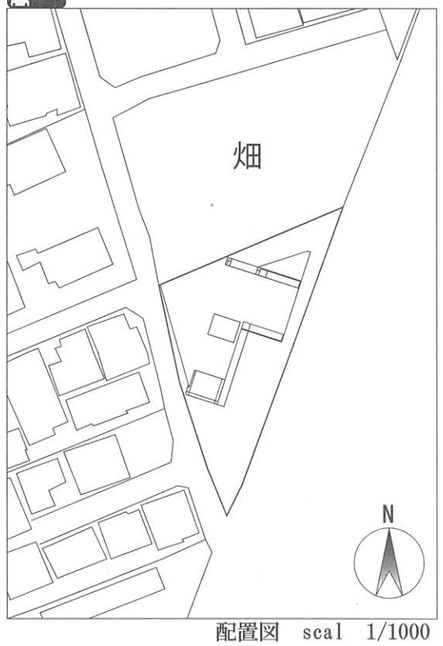


1階平面　scal　1/500　2階平面　scal　1/500



A－A´断面　scal　1/500

site 2　Agriculture school・市場



配置図　scal　1/1000